

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。ほんとに、きょうは、たくさん来ていただきまして、最後の一般質問をできることを幸せに思います。私は3期11年間、本当にいろんなことに携わってこられたことを嬉しく思っております。ほんとに、皆さんの声を十分に、市民の皆さんの声を十分に届けられなかったなあという思いはありますが、自分なりに一生懸命頑張ってきたつもりだと思っております。この11年間、私は、福祉と教育について、主に述べてきたように思います。

最後に、私は、市民の皆さんと、本当にたくさんの方々の支援者の方々に、お礼と感謝の言葉を添えながら、最後の一般質問をさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

やはり、私は、福祉と教育で締めくくりをしたいなと思っております。始めに福祉の問題ですけども、先ほど平野議員より、るる問題がたくさん出ております。話し合いもされておりますが、ほんとに、この福祉の問題というのは、切りがない問題だと思います。そしてまた、これも解決していかなければならない、厳しい課題でもあります。

ではまずですね、我が武雄市は、福祉の中でも私はきょうは高齢者の件について、絞っていきたいと思います。では、我々がこれから取り組んでいかなければならない、武雄市の高齢化といいましょうか、状況はいったいどんなものなのか。実態を、これを踏まえながら質問をしていきたいと思います。モニターをお願いします。

（モニター使用）ちょっとすみません。小さくて見にくいかと思っておりますけれども、これは市役所の方にしていただきました。これを見ていただければ、やはり、平野議員のときも出ておりましたように、本当に大変な高齢化になっていくというのがおわかりだと思います。

まず、1人暮らしの高齢者の世帯を見てください。人数としては2,199人ですけども、4.34%という高い数字が独居老人です。それから、高齢者のみの2人の家族、それが3,258人で、6.4%になっております。それぞれ町村によって違いはありますけれども、私たちは武雄市全体を見た場合は、うわあこら厳しいなあという、また、我々の周りを見ましても、こんな状態なのかなと思います。そして、最後の表を見てください。65才以上の人口。私も入りますが、1万3,222人。高齢化率は武雄町21.46、橘町30.23、朝日町23.7、若木31.45、武内32.61、東川登30.78、西川登31.61、山内28.06、北方町27.77。平均して、26.07%となっております。ほんと、日本全国、我が市も御多分に漏れずですね、高齢化社会というほうに進んでいることと思っております。

それでは、この実態を踏まえて、いろんな事業をしていただいておりますが、今の現在のところ、行政としてはどういうふうな取り組みをしてらっしゃるのかをお聞きしたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

細かい話は後で部長にいたさせますけれども、果たしてほんとに高齢化率が悪いのかという議論をしたほうがいいと思うんですよ。さっき副市長とも話をしてましたけども、我々がちっちゃいときです。まあ、副市長と僕は世代が大きく違いますけれども、いずれにしても小さいときですよ、60歳っていうぎんたですよ、もう、ねえ。いや、もうこれ以上はいいませんよ。ということなんですよ。びっくりしちゃう。

郷ひろみって今何歳か知ってます。もう、そうなんですね。真野響子って何歳か知ってます。62歳なんですよ。これ、公に出されてますから。果たして磯野波平さんって何歳か知ってます、想定上。いやいや、違うんですよ、58歳なんですよ。あの当時の磯野波平さんの58歳と、郷ひろみさんの58歳を考えた場合に、今言う高齢化っていうのが、全く意味が違うってことですよね。だって、大腸がんを患って見事に克服された鳥越俊太郎さんですか、ジャーナリストの。あの方、70超してるんですよ。田原総一朗さんも70超してるんですよ。

ですので、全員がそうとは言えませんが、我々が議論しなきゃいけないのは、その高齢化に加えて、不幸にして元気じゃない方ですよ。元気じゃない方を、やっぱりそこに中心を置いて議論を据えるべきだろうと思っていますので、単純に高齢化率がどうかということ考えた場合に、恐らくですね、30年前の——乱暴な言い方すると、60歳っていうことを考えた場合にね、今でいう多分75とか80だと思っんですよ。もううちの親父だってぴんこしゃんこですよ。ですので、もう70超してます。ですが、気も若いし、やっぱり元気で、まだいまだに働いてるんですよ。それを考えた場合に、やっぱりそこを、やっぱり昔とちょっとやっばこう変えて議論しなきゃいけないところが、物差しだけは昔のまんまっていうのがね、ちょっとそれはどうかなっていうことは思うんです。

ですので、部長の答弁については、そういう不幸にして、やっぱりこう元気じゃない方々もいらっしゃる率が高いっていうのは、高齢者の中に多いっていうのは重々承知してますので、その観点で答弁をしてもらいたいというふうに思ってます。

磯野波平ですよ。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

高齢者に対する事業といたしまして、介護保険とかはちょっと別にいたしまして、市が直接的に行っている部分ということで紹介したいと思いますけれども。

生きがい対応型デイサービスということで、デイサービスのところに行きまして、入浴とか昼食、それからいろんな健康チェックと、そういうふうな事業のデイサービス事業ですね。それから、高齢者の方にバランスのとれた食事を配達して、安否を確認するというふうなと

ころで、配食サービスの事業です。それから、定期的に高齢者の方の安否を確認していただくということで、愛の一声運動の事業ですね。それと、緊急時に、例えば、具合が悪くなったとか何とか、そういう方につきましては、緊急通報装置の対応事業というふうなことで、直接的な部分はやっております。また、同じ社会福祉というふうなところで、社会福祉協議会のほうが事業を実施しておりますけれども、そこについても、市のほうから補助を出しながら実施しているということでいきますと、ボランティア団体等が行ってもらっております、いきいき・ふれあいサロン事業とかですね、それから地区社協とか、これもボランティア団体で行ってもらっておりますけれども、独居老人の会食会とか配食とか、そういうふうな事業を展開しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

今市長の話にもありましたように、ほんとに年齢とですね、健康というのは差があると思えますが、きょうはほんとに、弱い方にしぼって話をしていきたいと思っております。

今、部長のほうより答弁ありましたように、いろんなことを市としてもやっておられます。私もいろんなものに関わっています。きょうはここで、お願いと、どう考えていらっしゃるかというのをお聞きしたいのは、先ほど出ておりました、いきいきサロン。それぞれの地区の高齢者の交流サロンについて、お尋ねをしたいと思っております。

なぜかといいますと、市長がおっしゃったように、元気老人はもう自分で行きたいところに行きます。私も70を過ぎております。昔だったら杖をついて家におると思えますが、今はもうとんびとんびしておりますけれども。だから、そういう人たちはちょっと抜きにしてですね、弱い方たち。その方たちは、今おっしゃった事業の中にありましたように、行政のほうから社協に助成をして、社協のほうからふれあいサロンのほうに助成をするとなっていると思えますが、そのサロンの状態についてです。

今、ほんとに元気老人も多い反面、またやっぱり、高齢者も多いです。行政のほうで、何でもかんでもしてくださいというのは無理だと思います。官民一体となって、そして私たちも、手を貸し手を添えながら、行政と一緒にやっていかなくてはならないんじゃないかと思えます。

それが、今、高齢者の交流ふれあいサロンというのは、私は一番大事じゃないかなあと思っております。それは、私の町、北方でも12カ所ですかね。それぞれの地区でやっております。ほんとに弱い老人を対象にするんですから、どっか1カ所にといいわけにはいきません。そこに行く手段も要りますし、手立ても要ります。これはやっぱり、それぞれの地区に、小さいところにたくさんできるのが一番良いと思っております。そしたら、歩いてでも行ける、杖をついてでも行ける、どんなにしても行ける。それでまた、そこで暮らせる。

私は、サロンに時々お邪魔をします。市長もいらしてくださいませけれども、本当にそこではですね、地域の人は地域の人たちと地域の中で、ほんとに明るく、楽しい笑い声と、1日しておられます。とっても楽しみにしておられます。わあ、こんなサロンがどこにでもできたら良いな。そして、やってる人は、先ほどおっしゃったように、みなボランティアです、女性の方がですね。そして、どがんなつとかな、ずっと見た、聞いていますけども、来てくださる方たちは、みんなそれぞれのボランティアで、食材も持ち寄ったり、お金を集めてはいらっしゃいますが、それぞれ以上にですね、いろんなもう、自分たちが持ってきて、自分たちで。そして、わあ大変ねえって言ったら、いやいや喜んで、こがんしてくんさあけん嬉しかとよ。その気持ちだけでっていうのでボランティアやっております。

そのときに、いろんな人たちと、そういうボランティアをしてらっしゃる人たちと話をしたときに、今は私たちは、我々年代が多いですけど、一所懸命こがんしてしてる。喜んでくれたけん良かったねって言ってしてる。でもこのあと、誰が継いでくれるやろか。年寄り減るっちゅうことはなかとけね、誰が続けてくれるやろかね、という心配を持っていらっしゃいます。

それと、そののサロンに来ていらっしゃる方々の声ですけども、私に言われるんです。まあまあ議員の端くれと思うとんさあけん、ちょっちょっちょっ、こがんしてくいようさあ人たちにね、報酬ばあげてくんしゃいって。そいけん、報酬ばもらいよんさあと思つてあつたとですよ。だから、いやいやそれは違ふとよって。これは、みんなボランティアでね、300円集めたのが報酬と思つとるのかわからんですけど、違ふとよって。それは、皆さんの食事代よ。そして時々、いろんなものをつくったり、何かするとのね食事代よ。材料費よ。あの方たちには、お金にしては一銭もなかとよって話を何か所かでしたことがあるんですけども。今は、そういう状態です。そして今、本当に、うまくまわっています。そして、次々にできております。社協さんもずっと進めていらっしゃいます。社協からは、北方のことであれですけども、年に2万円ですかね。きょう来てらっしゃいます、2万円ですかね。でもそれは、いろんな講師の先生を呼んだり、体操のトリムの先生を呼んだりして、その謝礼とか何とかに使っていらっしゃる。

とにかく、ボランティアでしていらっしゃる。ほんとに考えたときに、私も今のところは、こっちに立ってお世話できるほうですけども、反対になったときに、じゃ、誰が後継いでくれるのかな。そしたら、やっぱし、そのおばあちゃんたち、参加された人たちがおっしゃるように、何がしかの行政からの助成をですね、していただいて、そこを盛り上げて、広げていっていかんばとやないかなと思つたんです。思っているんですけども。

あと、ほかにもたくさんありましようが、私はこのサロンを広げて、その地区地区に小さなサロンの花をいっぱい咲かせていくのがですよって、みんなが生き生きと住める地域になるんじゃないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も何度か上野議員さんと一緒にふれあいサロンに伺って、本当にこう和気あいあいされて、ボランティアの皆さんたちが本当に頑張っておられるというのは、この場を借りて感謝を申し上げたいと思うんですね。

今後どうやっていくかについては、私も賞味期限が間もなく切れますので、こういうふうにしたいていうのは、ちょっとそれは避けたいと思うんです。避けたいと思うんですけど、ただ私の考えは、私はこういう性格なのでストレートに、できることはできる、やりたいことはやりたい、やれないことはやらないとストレートに言いますので、もう、これね、議員とは最後の機会なんで、申し上げたいと思うんですけど、私はそれを人件費に充てるのは反対です。ていうのは、人件費に充てた場合に、じゃあ果たして次の世代の方々がそれでまたこう——その人件費を目当てにする、あるいは、それで補えるかということでは、いらっしゃるっていうのは、僕はとても思えないんですよ。

なぜボランティアの皆さんたちが、自分たちの寝食を削ってやってらっしゃるかという、そりゃボランティアの精神に基づいて、やっぱりこれは、人様のためにやりたいと、あるいは恩返しのためにやりたいといったことについて、僕はそこはね、金銭的に報いるのはちょっと違うと思うんです。これは、金銭的に報いるっていうのは、これは市民の税金なんですよ。我々が予算を教示するっていうのは。だから、私は、何もそれを全部否定するわけじゃないんですけども、それで、この議会の同意を取るっていうのは、僕は非常にしんどいっていうふうには実は思うんです。

ですので、我々が考えなきゃいけないのは——ただそうはいっても、ボランティアの皆さんの負担で成り立っているっていうのは重々承知してますので、今、問題なのは、そこで手出しが要ってるのは、僕はそこは問題だと思うんです。ですので、どういったところに手出しをされているかっていうのは、そこはちゃんとね、社協にお任せすることなく、くらし部と社協と私どもで、きちんとやっぱりそれは聞いていく必要があるだろうと思ってますので、足らざる部分についてはね、我々は、私もこういう性格ですので、ちゃんとやります。

ですが、それを押しなべて、やっぱり、参加してくださるからといって、参加費ということをお渡しするっていうのは恐らく、僕も何度かボランティアを今までやったことありますけれども、それ、実はいただいたことあるんですよ。あって。でもね、私それで嬉しいと思っただけじゃないんです。嬉しいと思っただけじゃない。その私にいただくお金があったら、そのお金を実際困っている方々に与えて下さいっていうのを私も言ったことがあるんですよ。

ですので、恐らく多くの方々はそれをお思いだと思いますので、そこは足らざる部分っていうのは、ちゃんと精査をしていきたいというふうに思っています。

ですので、向かう方向の見える風景は、多分、上野議員さんと僕と一緒に思うんです。一緒に思いますので、そこで我々は何をすべきかということに言うと、やっぱり、足らざる部分についてきちんと補填をする、補助をするっていうことが、僕は行政に対して今求められていることかなという認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

市長のおっしゃること、よくわかります。

ほんとに今されているボランティアの方は、心を持ってされています。だから、報酬を求められておりません。これは私が一般的に考えて、これからずっとやったらこんなじゃないのかなって言って、今提案をしているところです。今されているボランティアの人たちが、報酬をくださいと言う方は1人もいらっしゃいません。その心に報いるために、私はどうすればいいのかなということ、報酬という言葉はほんとに、お金っちゅうと、何とかでいいような悪いような感じで、出したくはないんですけども、そういう気持ちなんです。ですから、気持ちは一緒に思っております。

それでは、おっしゃるように、このサロンを開いてからも何年にもなると思いますが、その話し合いの場っていうのはなかったように思いますので、やっぱり、そこに従事する人、社協、行政とよく話し合いをされて、ここはこう、ここはこうということ、をですね、していただければ、私はそれで続いていくものと思います。

ほんとに、このボランティアによる奉仕、ちょっとこう、口には出したくはないようなものですけれども、今ほんとにボランティアっていうことについてもですね、考えをしていかなきゃならない時代になってきたんじゃないかなと思いますのでね、そういうことをしっかりここでお約束できれば私はそれで。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません。私もちょっと賞味期限切れになりますので、ちょっとお約束はできませんけれども、思いはね、確かに議員の御質問を聞いて、ボランティアの位置づけっていうのはちゃんとやっぱり議論しなきゃいけないっていうのは、それは同じです。それとともに、確かにね、我々もちょっと、任せっぱなしにしてたっていうのがあるんですね。

私も、何か、上野議員さんと何回か行ったじゃないですか、ふれあいサロンに。何か私、お客さんみたいにして行ったんですよね。そりゃちょっと間違いだっていうのは、議員の御質問をいただきながら思いましたので。いずれにしても、三者協はやっぱりつくる必要があるだろうと思っております。つくる必要があるだろうと。すなわち、サロンの運営される方々の代

表者の方々と、まあ代表の方じゃなくてもいいんですけども、後、くらし部を、中心とする行政と社協と。三者協というのは必要だと思っていますので、私も、それは必要だと思っています。これはまあ、議会の、きょう、多くの皆さんたちも同じだと思っていますので、そういう、その意見のその共有ですよ。すり合わせっていうのはやっぱり立場を越えて行う必要があるだろうと思っていますし、そこでもう一つ大事なのは、やっぱり3プラス1だと思うんですよ。この1が一番大事で、それは利用者の方々の意見も、協議会の場でぜひ伺いたいと思っていますので、その必要性は十分に認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

今市長がおっしゃったような方向で、新年度になってからですね、正しく生み出していただきたいと思っています。楽しみにしております。私も一般市民としてですね、活動に参加したいと思っています。

では、次の質問に移りたいと思います。

次は教育について質問いたします。先ほど平野議員のときにもありましたように、タブレット導入、ICT教育については賛否両論あり、いろんな意見があります。あって当然だと思います。新しい方向に進むときには、いろんなことがありますし、それを進めていくにはたくさんのエネルギーが要ると思っています。

私も長い間、教職に従事しておりましたが、私もアナログ人間ですので、チョークと黒板さえあれば教育はできるというようなですね、安易な気持ちでおりました。でも、今ですね、時代は変わったなと思っています。先ほど平野議員の一般質問をお聞きしながらですね、ああそうだった、ああそうだった、というところがたくさんありました。

教育とは、本当に大事なことです。教育基本法にも十分にうたわれておりますが、世界の平和を願い、福祉の向上を目指し、貢献できる人間を育成する、人格形成をする、それが大きな目的です。その目的に向かってICT教育を取り入れていくという、何か、ぱって聞いたときには、タブレットICT教育が全面的に出るようですけども、私はそうじゃないと思っています。人間形成についてが大きな問題。そう思っているときに、だから私は初めは、ICTっちゅうのはいいもんか。すみません、要らない、私はこれで教育はできるっていうふうに思っておりましたが、先日、図書館で市長と代田教育監とのトークショーがありました。ちょっと聞かせていただきました。そして、ほんといろいろ聞いているうちに、ああ時代は変わったな。やっぱり時代の流れというのは、先ほど市長がおっしゃったように、世界に出て行くために、羽ばたいていく子どもたちを育てるためには、やっぱりこれは避けては通れない時代になったんだなと思っています。そのときに私の不安は大分解消されました。ですがまだまだ一般の方たちはたくさんのICT教育に関しての不安を持

っていらっしやいます。でもこの不安を払拭しながら、やっぱり明るい未来に向かって、私たちは進んでいかなければならないと思います。

そこで、代田教育監たちが、先進地のほうに視察に行かれました。そのときのことをですね、報告していただいて、ほんの一部ですけど、最終的に教育というのはこういうことを目指しているんだということですね、報告していただきたいなと思いました。報告をなさる前にですね、どうしてその国を先進地として、先ほど平野議員からフィンランドと出ましたよね。でも、アムステルダム——オランダのほうに行っていました。そこをですね、なぜそこを先進地として選ばれたのかということをお話しされてから報告をお願いしたいと思ひ、できるだけ映像も、ちょっと詳しくお願いしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

今、平野議員から御質問があられたオランダに先月……

○議長（杉原豊喜君）

平野じゃない。上野議員（発言する者あり）

○代田教育監

すみません。失礼しました。

〔11番「いいんですよ。よかよか」〕（発言する者あり）

上野議員、失礼しました。

〔11番「いえいえ、いいですよ。どうぞ、どうぞ」〕

平野議員にも、失礼しました。

上野議員より、なぜオランダなのかと、こういう御質問がありましたので、まずその点についてお話しさせていただきたいというふうにお思ひます。

先月の2月9日から約1週間、2月17日まで、オランダのほうに視察に行っていました。

実は今、世界の中ではオランダが世界の教育先進国ということの認識が高まっています。そのうちの大きな指標として、昨年度、2013年度、ユニセフが出した「子どもの幸福度ランキング」では第1位でした。これ、非常に高いんですね。特に象徴的に言われているのが、子どもが孤独と感ずる、この割合がですね、世界各国見てみると、日本は30%の子どもたちが孤独と感ずるという回答をしています。その一方でオランダは、世界最小3%の子どもしか、孤独と感ずらない、孤独と感ずるということが少ない国です。それはどういう教育なのか、ということが今、全世界で注目されているということです。

もう1つ、オランダに行った理由は、1つあってですね、武雄の蘭学、だからなんです。武雄市図書館・歴史資料館で現在「九州の蘭学 武雄の蘭学」という形で展示会があります

けど、多くの方行ったと思います。私も行きました。そのときにですね、17世紀中盤から、この武雄の地が、ヨーロッパ、オランダを中心にした先進諸国を、叡智を吸収して、武雄の蘭学が日本のいろんな文化を変えていったと。こういう歴史の中から、何かオランダには御縁があってですね、そういった先進諸国のことを学ぶ、武雄ならではのことができるんじゃないか、そんな思いもあって、オランダを視察国として選びました。

(モニター使用) 4つの小学校に行ってきたんですが、そのうちの2校が、写真にございますように、スティーブ・ジョブズスクールという学校です。全員に1人1台、タブレット端末が配られています。先ほど孤独が少ないというデータがあったんですが、一斉型授業、先生が黒板の前で生徒に一方的に伝えるという授業は、一切行われていません。すべて授業は、自分たちが選んで、学び合い教え合い、というスタイルになっています。

こういうことができるのは、自分の知識は時間と場所を選ばず、自習室や家庭や、いろんな地域の場所に行って、知識はタブレット端末を使って吸収しよう、そして、こういった学校は社会性や、人間性を育む場にしていこう、こういうコンセプトがしっかりしているので、いじめも少ないし学力も向上していると。こういう結果のスタイルの授業を展開しています。このために、iPadが非常に有効に使われているなというふうに思いました。

もう2つの小学校は、ピースフルスクールというプログラムを導入した学校です。これ現在、オランダでは600校、急速に発展している教育手法、プログラムです。これは何をやっているかというとはですね、先ほど話し合いがうまくいっているというふうにお伝えしましたが、オランダの人に言わせると、話し合い活動なんか放っておいて上手くいくはずがない、そこは認識してくださいというふうに言われました。さらに言うならば、民主的な態度、大人の民主的な態度は、子どものうちからしっかりと育まないと、放っておいてはだめなんだと。ちゃんと育てなきゃいけないんだということで、これ、4歳から9歳までが、けんかの仲裁について勉強しているシーンです。

これはですね、ロールプレイングという手法で、あなたが私の、この黒い人が、あなたが私の帽子をとったでしょう。いやいや、興味があったから、白い女の子が答える。それに対して、そのけんかの仲裁をロールプレイングしてるんです。いや、あなたたちは感情的になってませんか、ここの場所でいいでしょうか、場所を移したほうがいいですか、そんなところまで4歳の子どもたちが、話し合い活動のいろはを教えてもらう。

こういうプログラムを積み重ねることによって、先ほど、スティーブ・ジョブズスクールで1つの成功例と言われているように、話し合い活動がすごくうまくできる。人間性、社会性を育む場として学校が成立している。そのときにこういうプログラムとタブレット端末を上手に使ってですね、こう、最先端の教育。

先ほど平野議員から、ウィン、ルーズ、勝者と敗者をつくるんじゃないかという御指摘がありました。オランダの教育は、これは両方ともウィンウィンをつくる関係。けんか両成

敗ではなくて、けんかでちゃんと仲裁をして、お互いが納得する。そういう教育をしているので、決してその勝ち組負け目をつくらない教育をやってる。こういう展開を、その手法と、そのやり方、具体的なやり方まで聞いてきました。

最後の結論なんですけれども、武雄市で今始まっているタブレットの配布、そして反転授業の知識を家庭で蓄えてきて、学校では話し合い学び合い活動をする。この方向性自体はほんとに間違いがないんだなということは確信しました。こういう方向で世界が進んでいるし、多分こういう形に世界が追随していくんだろうな、そういった意味では、日本の教育の中で、こういった方向性に進むのは決して間違いではないなというのは確信しました。

その一方でですね、オランダもここにいくまで非常に苦労したというふうなことは伝えてきました。やっぱり先生方が、タブレット端末でついていけないとか、保護者の反対活動があったということの一つ一つ乗り越えていったんだと。10年かけて乗り越えていったんだという、校長先生、教育委員会の話を聞きました。そのときにやっぱり、キーワードはオープン、いろんな人に公開していくんだと。そして、みんなと一緒に、まさにこれ、みんなと一緒に、反対だから嫌だという言い方じゃなくて、こういう課題があるからこれを解決していこう、こういう形で、保護者市民と一緒にいい曲をつくりあげたのであって、これ、10年の結果ですよというような話をされたときにですね、私どもも、道のりは遠いけれども、必ず子どもたちには、豊かな学びができる、そして、21世紀、世界と互して自立できる子どもたち、1人も落ちこぼれをつくらない教育が、こういう形で実現できる、そして実現していかななくてはならない。そんなふうな思いを強くしたオランダ視察でした。以上です。

[11番「ほかに、ごめんなさい。ほかにもありました、ちょっと映像をぱ一って見せていただきたい」]

すみません。きょうはあれの議論なので、4枚くらい。

[11番「そうですか。はい」]

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当、今、何枚かのあれでとお話し、少しおわかりになったと思うんですけど、私たちの目指す教育というのは、この育成というのは、こんなものかな。私もこんなの初めてですね、こう見ましたので、お聞きして、なかなか即自分の気持ちの中に入ってこないかとも思いますけれども、行く行くはこうなるのかな。これが本当の民主主義の子どもたちの育成なのかなということをですね、ほんの少しわかった。だから、これに向かって、先ほどおっしゃったように、10年かかったとおっしゃる。本当に教育というのはそれほどですね、大事であり、また、長くかかっていくものかなと思っております。ほんとに、ありがとうございました。お勉強になりました。どうぞ、これからも生かしていただきたいと思っております。

では、こういうふうなことを受けてですね、もう私最後ですので、ちょっといろいろお聞きしたいんですけど、教育長にお聞きしたいと思います、教育長はですね、これからの教育を、今のようないろんなことを踏まえながら、どのように思っただけか、十分にお話しをしていただきたい。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変説得力のある代田教育監の話でありましたので、御理解いただけたと思いますが、今朝からの話題になっている——ともするとですね、ICT教育と人格の形成を対立的に見やすいような意見を、説明会等でもお聞きします。今の代田教育監の話にもありましたように、ICT教育が目指しているのが、いわゆる、どの子どもどこまで理解しているか、こうわかっているか、どの子ども育てるためだ。あるいは、やっぱり、一人一人をしっかり育てるためだということですね、御理解いただけたんじゃないかと。そして、併せて、教室では、学校では、それぞれの意見を持ち寄って話し合っただけ、お互いに人格を磨いていくと。そういうICT教育の根幹の部分ですね、ぜひ御理解いただきたいというふうに思います。

それらも踏まえましてですね、これからのことについてということでもあります。本当に激しい変化の社会でありますし、これからもっと進むであろうということ想像されるわけです。とにかく、たくましく生き抜いてくれる子どもたちを育てたいというのが、もう根幹であります。そのときに、それぞれの小中、保育園、幼稚園あるわけですけども、その環境をいかに、こう、整備していくかということが、私どもの仕事かというふうに思っただけです。中には、なかなか、学校には行きたくないという子どもさんもおられますし、あるいは、障がいを持たれた方、あるいは、いじめであつたりですね、課題はいろいろあるわけありますけれども、それらに、丁寧に対応しつつですね、できることをやっただけと。それが1つは、このICTでありますし、あるいは、土曜日等の開校であつたりですね、そういうことも含めて、取り組んでいくということでもあります。

よく言われる、理想としてはですね、ほんとに武雄で子育てをしたいと言われる方が、どんどん出てきていただけるような状況をですね、結果的にそういう状況に高めるとというのが、私どもの仕事だと思っただけです。

ここ数年ですね、特に感じてますのは、北方町の場合もそうでありますけれども、家庭や地域の方が非常に今、関わっていただいているということ強く感じております。今年度もしてもらってますが、例えば夏休みの教室とかですね、あるいは武中の力で関わっていただいている。ほかの学校も、いろんな形で関わっていただいただけ、子どもたちを、この揺れが少ないように、あるいは支える、あるいは先輩として教える、いろんな形で関わっていただいている。環境としては、学校もそうですし、家庭地域にあつてもそういう環境を整え

ていくと。そういう中でたくましく生き抜く子どもたちを育てたいという考えでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番 上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございました。教育長はどういう考えか、皆さん、もうおわかりになったと思います。これから住む、学校ですね。現場です。

では、最後に市長にお伺いしたいんです。教育に命をかけるとおっしゃった。4月から多分市長になられますので、どんなふうに教育に命をかけられるのか。教育の改革というのは、今、全国でもですね、教育長の任命とか何とかの問題についても、いろいろあって、皆さんも不安を感じておられます。そういう中、今、代田先生の、大先進国の報告、それから、教育長の具体的ないろんな方策。それを踏まえて、市長としてそれをどういうふうに、これからですね、教育の開拓をしていっていただけるものなのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は保育所中退です。小学校は不登校ど真ん中。中学校は、激しい反抗期で、中学校も行ったか行かんかっていう状態。高校も、2年生のときから行けんごとなったとですよ、体が動かんで。それで、大学のときは寝たきりです、はい。床ずれっていうのもできました。です。私は全部公教育なんですね。まあ浪人したときは、仙台に行きましたけど、それを除けば、保育所から大学まで全部公教育という。まあ、ある意味今の時代だと珍しい人間なんですね、オールジャパンでみたときに。

そのときに、公教育っていうのが——これは私の体験ですよ。私の体験で、やっぱり一人一人にやっぱあつとらんと思ったんですね。一人一人に。だんだん、だんだん学校の先生たちも忙しくなっていくし、やっぱり、こっちは向き合ってもらいたいと思ったけど、学校の先生は、いろんな、例えば、教育委員会に出さなきゃいけない書類とか、いろんな教育以外のことでね、対応せんといかんっていうのが、ずっと増えてきたと。

それともう一つ、僕が一番嫌だったのは、3つ、選択肢。この3つのうちから正解を選ぶというのは一番嫌だったんですよ。わからんやんね、そんな。鎌倉時代、いい国つくろうって、関係ないじゃないですか。しかもそれ間違いやったとですよ。いい国じゃないんですよ。悪い国じゃないですよ。1192年じゃないんですよ。だから、一番問題な、僕はもう、高校のときに悟ったんですけど、正解がない時代に、何で正解を、与えられた過去の正解をね、解かないかんのかというのはずっと問題だったと、問題だと僕は思ってたんです。問題だって。暗記中心。そんなの機械がやってくれりゃいいじゃないですか。ここのコンピューターのほうがよっぽど僕より暗記いいですよ。ですよ。だから、そういうふうに、全然なんか

もう、昔の明治のとき、まあ、あるいは江戸幕府かもしれんですよね。江戸幕府のときの教育が、社会情勢が変わったにも関わらず、ずっと同じであった。代田先生から教わりましたけれども、黒板でもね、明治のときからなんですね、あれ。違いましたっけ。

〔代田教育監「学校に話したの、明治からですね」〕

そうですね。合わせてくれました。何でもまあ、明治か江戸時代か知りませんが、けど、どんどん変わっていったわけじゃないですか。だから、その社会の変化に、教育が変わらなきゃいけないところがあります。変わらなきゃいけないところはあるんだけど、変わらなきゃいけないところが変わらないと。

それと、正解至上主義。これからの世の中ってというのは、僕は自らやっぱ正解をつくっていくって。その正解を解くんじゃなくて、与えられたものをね、そこら白だから白とかじゃなくて、もうねこれからは、少し乱暴なこと言いますが、白を黒と言い切る。いい意味ですよ。いい意味で。それがグローバルなこの競争の社会をしなやかに、賢く、たくましく乗り切っていくってということだと、僕は思います。議員の皆さんも、そうじゃないですか。白ばピンクと言ったり、ピンクを黒って言ったりですよ、みんなこういうふうにとくましく乗り切っておられるじゃないですか。だから、僕はそういう側面は絶対大事だと思うんですよ。そういう側面が。それを楽しく学ぶっていうのが、これからの特に小学校の役割だと思うんです。

きょうの佐賀新聞見て驚きました。最近の佐賀新聞いいですね。これ、この猪子さんという人と、きのう僕対談をしました。猪子さんという人と対談をして、今、県内の4カ所と、あそこ、武雄市図書館で特別連動企画をやっているんですけども、これ同じことやっぱおっしゃってます、猪子さんも。これからは自分たちが正解をつくっていく時代なんだって。自分たちがやっぱこういう、クリエイティブな発想をしてね、どんどん。それもしかめ、1人勝ちじゃだめだとおっしゃるんですよ。チームで、みんなで、乗り切っていくって。だから、1人勝ちはだめだとおっしゃるんですよ。だから、それを、これからは自分たちは目指していく必要があるだろうと思っていると。

それでしかも自分たちは——これはいろんな本に書かれてインタビューでも答えられているんですけども、やっぱ、落ちこぼれという言葉が、僕、いいのか悪いのかわからないですが、僕はいいと思いますけれど、そういう落ちこぼれをつくらない、というのも、やっぱこれからはね、こういう自分たちの活動を通じて世の中を引き上げないといけないということをおっしゃっておられましたので、これはぜひ、県内4カ所プラス武雄市図書館は、やっぱ見ればわかるっていうのがあるんですよ。

だから、こういう生み出す人間と、子どもたちが、僕もこれ見たことありますけれども、ものすごくこれに反応しているんですね。もう驚きますよ。水族館、デジタルの水族館で、自分が書いた魚をばってかざすだけで、その書いた魚がずっと泳ぎまわりますよ。あるい

はそこに象形文字が出てるんですね。象形文字が。わけわからんでしょ、象形文字って。ぺたって触れると、鳥っていう象形文字に触れると、まあ似てるんですよ、何となく鳥に。そしたら、ぺたって触れると、本物の鳥が飛んでくるんですよ。そうすると象形文字と鳥っていうのが、その暗記じゃなくて子どもたちは体感でわかるんですよ。

だからもう、その社会がそういうふうに変わってるんですよ。ですので、我々はそういう機会を積極的に与えなきゃいけないっていうふうにも思ってるんです。だから、これは武雄市だから僕はできると思ってるんですよ。

この議会が、ものすごくそこは、侃々諤々、喧々諤々議論しますけれども、やっぱりそういう機会を用意しようという、上野議員さんを始めとして、議会がそういう場を今までつくってくださっているということには感謝をしたいと申し上げてますし、タブレットをね、小学校にとか中学校に持っていったらね、普通の多くの議会はそりゃ反対しますよ。だけど、もろ手を挙げて賛成してくださったじゃないですか。だから、僕はそういう議会には深く感謝を申し上げたいと思ってますし、やっぱり政治の場がね、介入じゃないですよ。介入じゃなくて、教育のこれから楽しい、楽しいですね、子どもたち——私がまた再入学をしたい。そういう小学校を、それでやっぱり、月曜日楽しみって、はよう行きたい、というような小学校になるように、我々としてはそういう環境をつくるっていうのに命をかけて取り組んでいきたいと、このように思っています。

ですので、最後にしますけど、代田教育監が、孤独を感じる、オランダが3%。うちは0%を目指して。0%を目指してね、そこが、私はこれから目指す、教育の原点。それは学力より、そんな数字よりも、僕は学力日本一なりたいて一言も言ってませんよ。それよりも、やっぱりそういう数字がゼロになる、孤立、孤独を感じる率がゼロになるような教育をぜひ目指していきたいと。それが僕は、ひいては学力に、結果として僕はつながっていくと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

ここでできませんけど、大きな拍手を送りたいと思います。ほんとにありがとうございます。私もそういう教育を目指しております。それも長くかかるかもわかりませんが、ぜひそういう学校、そういう環境にしていきたいと思っております。そのためには、いろいろあるとは思いますがですね。

私も始めはタブレットの話出たとき、市長は議会がもろ手を挙げてとおっしゃいましたけれども、半信半疑で手を挙げました。賛成。いやほんとに。そのときよく、皆さんと一緒に。よくわからなかったんです。でもやっぱりそういうものなのかな、そうなるのかなっていろいろずっと、今は違いますよ。勉強していろんな話を聞きながら、ああそうか、そうなら

なくてはいけないのか。そこを全国に先駆けて、我が武雄市がしたということはほんとにすばらしいことだと思っております。

そして、世界に向けてですね、ほんとに明るくしなやかに賢く、おっしゃるようにですね、羽ばたいていただいて、人間形成をもとにそして飛び立っていったらまた、この武雄市に帰っていかうかな、ふるさとを大事にして帰ろうかな、というような人間を育てていただきたいと思います。

私も今から一般の市民になりますが、大いに期待をしながらあらゆる所で活動していっていきたいと思っております。ほんとに長い間です、お世話になりました。行政の皆さんもありがとうございました。おかげさまで。

私はこれをもって、一般質問を終わります。どうぞ、頑張ってください。ありがとうございました。

すみません、最後にごめんなさい。全国住みたいナンバー2を、トップを目指して4月より樋渡市長、頑張ってください。(笑い声) 終わります。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

以上で、11番 上野議員の質問を終了させていただきます。